

長浜統合新校設置懇話会 第2回会議 概要

1 日 時

平成25年7月19日（金） 15:30～17:10

2 場 所

滋賀県立長浜北高等学校 セミナーハウス

3 会議の内容

- (1) 校名の選定方法について
- (2) 部活動について
- (3) その他

4 出席者

(1) 委 員

浅見 幸則 委員（長浜市PTA連絡協議会 会長）
岩崎 陽子 委員（長浜北高等学校 学校評議員）
北川 庸子 委員（長浜高等学校 学校評議員）
田中 智佐人 委員（長浜高等学校同窓会 会長）
藤居 茂樹 委員（長浜市企画部 部長）
宮腰 悦子 委員（児童文化活動支援グループ「すずめの学校」 代表）
吉田 豊 委員（長浜北高等学校同窓会 会長）

(2) 統合新校開設準備室等

辻 浩一 統合新校開設準備室長（長浜北高等学校長）
堤 須賀彦 統合新校開設準備室参事（長浜高等学校長）
茶谷 不二雄 県教育委員会事務局学校支援課参事

5 主な意見

(1) 校名の選定方法について

- 校名選定方法は一般公募が良いが、新校での理念や具体的な取組を議論してから公募すべき。
- 校風、教育理念に基づいて校名を考えるべき。
- どちらかの校名になるという前提で考えていたが、どんな校名でもよいということか。
- 懇話会が校名を決める責任を持つことは避けてもらいたい。
- 再編計画で新校のコンセプトは示しており、これを募集要項にも提示して公募したいと考えている。
- 現在の校名を残してほしいという思いは強いが、この思いを払拭して、新しい校名をつけることも必要だと考える。
- 校名を公募する方法をとった理由は、地域の関心が高く、期待も大きいこと、地域に根

ざした学校づくりのためにも必要との考えからである。

- 学校教育は学校が責任を持って行っていくべきで、広く意見を求めるものではない。
- 他府県のケースなどを検証し、現段階では応募条件をつけずに募集することを考えている。教育理念等の条件を付けることで校名案が限定されてしまうのではと考えている。
- 条件はむしろ限定すべきではないか。校名には所在地を表す長浜の名は付けるべき。
- 新校をイメージして校名を考えるには、ある程度、考える材料を示して実施すべき。
- 教育理念等については、次回9月に開催予定の懇話会で示したい。校名はその後の募集になり、一定の理解をいただいた上で公募できると考えている。
- 応募数では決めないこと。思いを伝える議論をする場を作っていたきたい。
- 県外に在住する卒業生への募集の周知は、両校と県のホームページで対応したい。

(2) 部活動について

- 中学校3年生には、長浜、長浜北両校が同じ内容で、8月の体験入学で説明する。
- 新校のコンセプトに文武両道の重視がある。特色ある部活動としてアメリカンフットボール、ホッケー、弓道は存続させたが、特にグラウンド種目の整理が必要となり、ソフトボール、硬式テニスは設置しないこととしている。
- 文化部は、平成28年度以降に新たに設置することも可能である。
- 生徒数が多くなり、活動場所が狭められるが、物理的に活動が可能なのか。
- 選択肢がたくさんあることは大事だが、限定して活動することも大切。どれも中途半端になるよりは、アメリカンフットボールなどに限定して強化することも必要ではないか。
- 部活動は、生徒の達成感も大きく、学校の活性化のために非常に大きな要因となる。できるだけ多くの部活動を設置し、生徒の選択肢を広げ、9割近くの加入率を目指したい。
- 平成28・29年度の練習場所は、現在よりも狭くなるが、工夫して取り組んでいきたい。
- 弓道部の練習場所は、長浜市にある弓道場の借用や、グラウンドに仮設の練習場所を設けることも検討している。
- 文化部では、既存の部活動にこだわらず、新校のコンセプト、再編のねらいにある国際人の育成のもとに、日本文化を大切にす部を作ってはどうか。
- 生物や化学などの理系の部活動を新たに設置しないのか。部活動を新設する方法は。
- 生徒から要望してくるのが一般的で、通常、同好会から始めていく。
- 英語の紙芝居で伝統文化（曳山など）の紹介などに取り組む部活動があってもよい。英語力や表現力を身に付けることができる。

(3) その他

- 本日話題になった教育理念についてのご意見を伺いたい。
- 校訓は「自彊不息」が良いと思っている。両校の歴史や思いが込められたものがよい。
- 学校の教育理念等を表すものはいろいろとあるが、準備室では、新校の教育理念等の検討にあたっては、「校訓」「教育目標」「教育方針」の三つに絞って検討を重ねている。
- 校名公募を実施するまでに教育理念等を示してほしいとの要望をいただいた。次回の懇話会で提示することを原則考えている。